



かい ま おもむき  
 当時の生活を垣間見ることができる趣のある建物

おおいけてい にい み ごうしやう ちい き なかまちかいわい ちゅうかくてき  
 太池邸は新見の豪商として知られ近代新見地域の商業の中心地として栄えた中町界隈にあり、その中核的  
 な商家の一つに数えられています。明治時代にはこの地域で最初の百貨店を開業し呉服など多くの商品を販  
 ばい 売していました。

げんざい めいじ もくぞう いりもや きりづま さんかわらぶき  
 現在の建物は明治時代末期に建てられたもので、木造2階建、向かって左側が入母屋、右側が切妻、棧瓦葺、  
 がいへき まかべづく しつくいしあ こうしど なまこかべ いしやうてき ほどこ  
 外壁は真壁造り白漆喰仕上げ、開口部が格子戸で海鼠壁が意匠的に施されています。現在は新見市が借り受  
 こりゆうきよてん しせつ  
 け交流拠点施設として利用されています。

◆ 施設のおすすめ

けんせつ きちやう そうしよく ほどこ らんかん  
 明治時代末期に建設された太池邸は当時の趣を残す貴重な家屋となっています。見事な装飾の施された欄間や、  
 まつ りつぱ かみだな べんから うるし め はり  
 商売の神様を祀った立派な神棚、弁柄と漆を組み合わせて塗られた梁・柱、当時の生活用水として利用されていた  
 井戸が屋内にあるなど当時の生活を思い起こすことができます。

ひな かいさい えど めいじ たいしやうしやうわ どげ  
 3月には「にいみ雛まつり」が開催され、江戸・明治・大正・昭和の様々なお雛様を見ることができ、10月には「土下  
 ざ こしんこうぶ きぎやうれつ と おこな にぎ  
 座まつり(御神幸武器行列)」が執り行われ太池邸前の道路も通るので大変賑わいます。

◆ 子どもたちへのメッセージ

たたみ しつかん いくさ  
 明治末期に建てられた住まいや手間のかかった装飾、今では少なくなった畳の質感や蘭草の香りを感じることで  
 昔の日本人はこういった生活をしていたのだと知り、思いを馳せてもらえればと思います。今は水道があるので簡  
 たん 単に水を使ったり、飲むことができますが昔は井戸からくみ上げなければならないといった現代との違いにも目を  
 向けてもらえればと思います。



がいかん  
 外観の様子



ないかん  
 内観の様子



中庭



室内



井戸



おおいけてい かざい  
 太池邸の家財



かみだな  
 神棚